

■9月5日

国交省、「羽田空港発着政策コンテスト」を開始

国交省は4日、羽田空港の国内線発着枠の配分をコンテスト形式で決める提案の募集を始めた。地方路線を対象に、地元自治体と航空会社が集客策や運航計画を提案し、その評価に基づいて枠を配分する。地方路線の維持に向け、自治体が航空会社と一体となって採算性の向上をめざすよう促す。

提案は10月15日まで受け付け、11月中に有識者会議の評価をまとめて配分を決める。適用は2014年3月30日から16年3月下旬までの2年間で、1日3枠が対象。山形県や佐賀県、鳥取県などが提案に向け検討を進めている。

＝以下コンテスト詳細＝

羽田発着枠政策コンテストへの提案募集の開始について (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001010305.pdf>) (PDF形式)

別添1 羽田発着枠政策コンテスト募集要項 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001010326.pdf>) (PDF形式)

(別紙1)評価基準 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001010327.pdf>) (PDF形式)

(別紙2)提案書様式 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001010447.xls>) (Excel形式)

別添2 羽田発着枠政策コンテストの評価等に関する懇談会委員会名簿 (->

<http://www.mlit.go.jp/common/001010323.pdf>) (PDF形式)

別添3 羽田発着枠政策コンテストの評価基準等に係る委員からの追加意見 (->

<http://www.mlit.go.jp/common/001010328.pdf>) (PDF形式)

(国交省プレスリリース)9/4

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000083.html (-> http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000083.html)

(日経)9/4

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0402U_U3A900C1EE8000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0402U_U3A900C1EE8000/)

(日刊航空)9/5

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

春秋航空日本(LCC)、国交省に認可申請、成田拠点、国内線3路線

中国の格安航空会社「春秋航空」を親会社にもつ「春秋航空日本」は、成田空港を拠点とする国内線の就航を目指し、5日、国土交通省に認可の申請をすることが分かった。NHKが報じた。

同社は、成田空港と広島、高松、佐賀の3つの空港を結び、それぞれ1日2往復の運航を目指す計画で、5日国土交通省に事業の認可を申請するという。年内に認可が得られれば、来年5月の就航を目指したいとしている。

同社の親会社である春秋航空は、上海から高松、茨城、佐賀に向かう国際線を運航していて、国内線への参入により、中国からの旅行客の利便性を高めるとともに、今後、日本人向けのサービスも充実させたい考えだ。

(NHK)9/4

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130904/k10014295121000.html> (->

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130904/k10014295121000.html>)

新関空会社、関空―簡易ホテル新設を検討

新関西国際空港会社は4日、来年の関西空港開港20年に向けて、利用客の満足度を向上させる取り組みを始めると発表した。

その中でLCCの旅客を対象にした1泊3千円程度の簡易ホテルの新設を検討することを明らかにした。早朝や深夜に離着陸する格安航空会社(LCC)などの利用客の利便性を高め、滞在しやすい空港を目指す。

取り組みのスローガンは「Smile Airport!」。24時間離着陸できる強みを生かして、24時間営業の飲食店を増やし、早朝や深夜のリムジンバスの使い勝手を良くする。

(中日新聞)9/4

<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013090401002055.html> (-> <http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013090401002055.html>)

(新関空株)CS向上プロジェクト)9/4

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1794/cssmileairport.pdf> (-> <http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1794/cssmileairport.pdf>)

マンダリン航空、石垣—台北線、定期便運航へ

台湾の中華航空グループの華信航空(マンダリン航空)は4日から台北—石垣便を定期便として運航する。8月20日に国土交通省が中華航空に対して運航許可を出した。同路線はこれまで、石垣市内の観光施設「クラブメッド」による双方向チャーターで運航していた。

チャーター便では、市内の代理店でのみ航空券の購入はできなかったが、定期便では、ネットでも購入できるようになる。市によると、同社は現在、ネット購入システムを構築中という。

(琉球新報)9/4

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-212042-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-212042-storytopic-4.html>)

(八重山毎日)9/4

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/23215/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/23215/>)

八重山地域、観光客、7月は10万人突破、直行便就航が押し上げ

八重山事務所は3日、7月に八重山地域を訪れた観光客数が月単位で初めて10万人を突破したと発表した。八重山地域は3月の南ぬ島石垣空港の開港で県外都市圏の直行便が増便になるなど、観光ブームが訪れている。

沖縄タイムスによると、南ぬ島空港や与那国空港、石垣港の入域者数をまとめた「八重山入域観光客数統計」によると、7月の入域観光客数は10万2408人で、前年同月より1万9973人(24%)の増。過去最高だった今年4月の8万5333人も大きく上回った。

空路の入域数では、東京(羽田、成田)が前年比252%の1万3276人。大阪(関空)が同比223%の1万683人と倍増した。昨年は就航していなかった神戸、名古屋の便でも計5694人が八重山入りした。

一方、7月にスカイマーク参入により、既存の航空会社が那覇—石垣便の値下げに踏み切ったが、那覇からの入域者数は同比102%と横ばい状態で、県外からの直行便で八重山を訪れている人が入域者数を押し上げていた。

(沖縄タイムス)9/4

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-09-04_53673 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-09-04_53673)

大韓航空、大分—仁川線増便、週3便へ

大韓航空は3日、大分—仁川線を12月25日から来年3月29日まで、現行の週2往復から週3往復に増便すると発表した。温泉など大分の観光資源が魅力を増す冬季には韓国からの観光客が増えると見込む一方、伸び悩む大分からの利用者増に力を入れるという。週3往復への“復帰”は東日本大震災の影響で運休する前の2011年3月以来となる。大分合同新聞が報じた。

同社によると、今年8月の搭乗率は昨年同期と比べ約25%減少。韓国からの利用は増えたものの、北朝鮮をめぐる情勢不安や円安ウォン高の影響で大分からの利用が大きく減り、全利用者に占める割合は30%台前半まで落ち込んだ。

増便により旅行商品の種類を増やしやすくなるとして、同社と県は旅行会社との交渉に力を入れる方針だ。県交通政策課は他空港との競争も激化しているとした上で、「新聞、雑誌などを通じて県民にソウル線の利用を呼び掛けたい」としている。

(大分合同)9/4

http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137825560984.html (-> http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137825560984.html)

岩国空港、8月、利用状況、平均搭乗率86.8%

全日本空輸山口支店は、岩国錦帯橋空港(岩国市)の8月の利用状況(速報値)をまとめた。羽田線1日4往復の平均搭乗率は86.8%と、開港後の月間最高を記録した。搭乗者は3万6380人。同支店は「観光客の利用が予想以上に多く、高い搭乗率になった」としている。中国新聞が報じた。

同支店によると、空路利用の多い7、8月でも、搭乗率が85%を越す路線は珍しいという。昨年8月の全日空の国内路線では、85%以上が成田—大阪や仙台—札幌など4路線にとどまり、全ての路線の平均は68.3%。

尚、岩国空港の8月末までの利用者総数は25万5914人で、平均搭乗率も72.5%にアップした。

(中国新聞)9/4

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201309050018.html> (-> <http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201309050018.html>)

タイガー・エアウェイズ・フィリピン(LCC)、日韓路線への就航も計画

(NNA ASIAによると)

シンガポール系格安航空会社(LCC)タイガー・エアウェイズが40%を出資するタイガーエア・フィリピン(旧シーエア)は、路線拡大に向けて、来年にエアバス320型機2~3機のリースを予定していることを明らかにした。4日付マラヤなどが伝えた。

ラモス社長は、日本と韓国への乗り入れを視野に入れているとコメント。日本路線では週4,000~5,000席の乗り入れ枠を確保したいとした上で、今月11~13日に東京で予定されている日本との航空交渉に参加する方針を示した。乗り入れ先として、東京、大阪、名古屋、福岡を挙げている。

一方、韓国路線では、マニラとセブを拠点に、仁川(ソウル)と釜山への乗り入れを計画しているという。

(NNA ASIA)9/5

<http://news.nna.jp/free/news/20130905php008A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130905php008A.html>)

デルタ航空、エアバス40機購入

デルタ航空は4日、欧州の航空機大手エアバスから40機を購入する方針を発表した。内訳は太平洋・大西洋路線用の大型機「A330—300」10機と、米国内路線用の「A321」30機。2015~17年にかけて順次納入を受ける。欧米メディアによると正規価格では約56億ドル相当だが、デルタ航空は購入額は明らかにしていない。

(日経)9/5

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGN05001_V00C13A9000000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGN05001_V00C13A9000000/)

ライアンエア(LCC)、通期利益未達の可能性

(ロイターによると)

アイルランドの格安航空大手ライアンエアは4日、通期の利益見通しが未達に終わる可能性があることを明らかにした。競争激化や欧州諸国の緊縮財政、為替相場動向によって予約が打撃を受けているためという。

同社は通期の純利益について、従来予想レンジ(5億7000万—6億ユーロ)の下限になると予想した上で、運賃の低迷がさらに続けば、その水準も下回る可能性があるとの見方を示した。

(ロイター)9/5

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0H01IK20130904> (-> <http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0H01IK20130904>)